

vol. 2286

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館  
TEL/(097)556-2838 FAX/(097)556-8998 MAIL/ohtwu@view.ocn.ne.jp

# 大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に入れて徴収しています)



## 今号の掲載内容 (掲載順)

- 第501回 中央委員会
- 2023年度 高教組当初予算教育長交渉

## 第501回 中央委員会

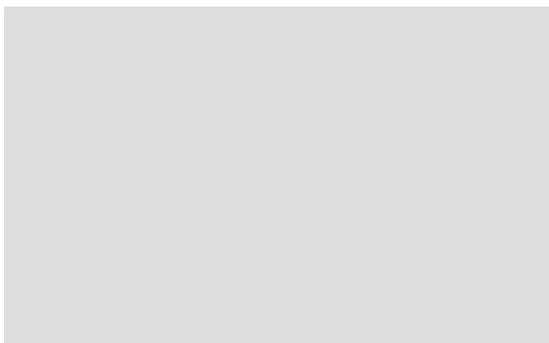
とき 10月6日(木) 13:30~ ところ 教育会館多目的ホール

### 委員長あいさつ (要旨)

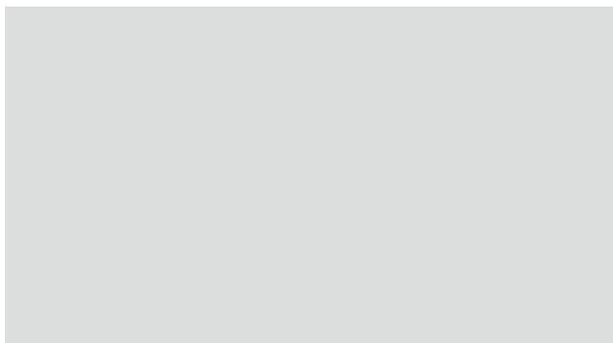
分会での校長交渉のとりくみおつかれさまです。これからとりくむ分会も残っていますが、多くの組合員が参加し、全県統一で行う高教組の大きなとりくみです。校長交渉を起点として、地公労の賃金確定交渉につなげましょう。今週出された大分県人事委員会勧告では、地公労の三年越しの要求であった「水準調整」が勧告されました。金額からすると僅かにしかありませんが、地公労に結集する組合員のとりくみの成果です。また、今月後半は、二週にわたって、県教研全体会・分科会を開催します。教職員組合の運動の両輪としての、賃金確定交渉・教研集会を成功させましょう。

昨日、日教組の会議に出席しました。日教組が行っている単組(各県の県教組・高教組)の組織化に向けた支援事業についての会合です。47都道府県のすべてに日教組の仲間がいます。しかし、組合の規模は大小様々で、中には組合員数が極めて少ない県もあります。日教組組合員の少ない県は、そのほとんどが1989年の連合結成時に、日教組の連合加盟に反対しその県の県教組・高教組が日教組を脱退して全教(全日本教職員組合)を結成したところです。全県で数えるほどの組合員しかいない組織からは、「どれほど組合員が少なくても、日教組からの情報を得ることができること、また全国に仲間がいるということが大変心強く、組合活動に向かう活力となっている。」という声が上がっています。大分高教組も、組合員数の減少という事態に直面し、ともすると組合の運動に向き合う活力が減退しそうな状況ですが、わたしたち一人ひとりが「高教組の組合員であること」「全国連帯できる日教組の組合員であること」を誇りとし、組合の運動に自信を持つようではありませんか。

多くの反対を押し切り、安倍晋三氏の「国葬儀」が執り行われました。一人の国民として、個人でいくら声を上げて、その声を通らない状況が続いています。立場の弱いわたしたちは、団結しなければなりません。わたしたちの職場環境を改善し、教育内容を充実させるためには組合のとりくみ、中でも政治闘争が重要です。そのためにも、来春行われる統一自治体選挙で、支援する候補の全員当選をめざしたとりくみが重要です。今日の中央委員会で、職場実態をふまえた真摯な討議が行われ、今後のとりくみの方針が決定されることを期待して、執行委員会を代表してのあいさつといたします。



議長：(左から) 中島マミさん (中津南分会)、  
岩本智行さん (情報科学分会)



議事運営委員：(左から) 阿部睦美さん (国東分会)、望月一志さん (大分雄城台分会)、堤浩史さん (三重総合分会)

## 質 疑 応 答

### ◆◆ 第1号議案 ◆◆

#### ◇民主的で働きやすい職場づくりのとりくみ

爽風館定時制：「通級における指導」について、事前に打診もない状態で一方的に担当を決められる。「当局に対する批判、検討、課題指摘が必要である。」とあるが、県教委に対して、いつの時期にどう働きかけていくのか。

回答：通級担当者の決定については、人事に先んじて対応する。その他、県教委への課題指摘は、随時行っていく。

### ◆◆ 第2号議案 ◆◆

#### ◇平和と民主主義を守り、発展させるとりくみ

爽風館定時制：新型コロナウイルスのワクチン接種・マスク着用において、若年者の被害が出ている。県教組と連携をして、とりくみができないか。

回答：まずは県教組と情報共有をしていく。

### ◆◆ 第5号議案 ◆◆

#### ◇当面するとりくみ

安心院：「教育制度検討委員会」が10月21日に設定されているが、この日はヒューライツフォーラムがある。なぜこの日に設定をしたのか。日程調整が大変なのは分かるが、この日程で淋しい思いをする組合員もいることを分かってほしい。

回答：可能な日程を検討した結果、この日の設定となった。今回はご理解いただきたい。

### ◆◆ 討論 ◆◆

#### ◇教育文化活動のとりくみ

臼杵：定員割れをしている学校は、生徒の確保に非常に苦勞している。全県一区に対して、きちんとしたデータを基に議論をすすめるべきでないか。

#### ◇民主的で働きやすい職場づくりのとりくみ

臼津：津久見高校で情報コース新設の話が急に出てきて、現場は混乱している。教員の負担が大きくなる。問題ではないか。

#### ◇その他

佐伯鶴城：今年度実施の教員採用試験で、新型コロナウイルスに感染したため、二次試験を受験できなかった受験者がいた。また、義務制でも同様の事態があったと聞いている。校長は県教委の担当者と話をしたが、「再試験等の対応はしない」ということであった。今後決して同じことが起きないように、我々が何ができるかを考えていくべきだ。また、職場内で複数の先生がこの問題に対してとりくんだ。

### ◆◆ 本部見解 ◆◆

・津久見の話だけに限らないが、最近、新規事業について県教委から一般職員に対して事前の

打診なしに知らされることが多い。現在の業務負担がさらに増えることを考慮すること、また適正な人員を配置すること等、県教委に対して申し入れを行った。

- ・各分会において、組合の意義を考え、つながりを大切にしていくことが重要である。また、職場の課題についても、分会で行動するとともに支部や本部との共有も大切であるので、ぜひ相談してほしい。

## 2023年度 高教組当初予算教育長交渉

とき 10月13日(木)

ところ 教育委員室

10月13日に、当初予算教育長交渉を行いました。今回も新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模が縮小され、大分高教組からは本部執行委員や支部・単組・専門部からの代表者25名で交渉に臨みました。

各分会から提出された「当初予算にむけた分会要求一覧」を手交後、冒頭教育長から口頭回答を受けました。

岡本教育長

### 教育長口頭回答(抜粋)

#### ○教職員の健康保持・増進

- ・教職員健康支援センターに専用の相談室を設置。
- ・メンタルヘルス対策として年2回以上のストレスチェックの全員実施の徹底。また、集団分析結果を各学校に提供。
- ・病気休暇・休職からの復職者が円滑に復帰できるように、心のコンシェルジュや精神科医が支援する。
- ・今後も、教職員の健康管理・福利厚生の実現に努める。

#### ○各種検診

- ・人間ドッグ事業を毎年改善している。今年度は、新たに節目検診に25歳を追加した。
- ・胃カメラによる胃がん検診・脳ドッグの定員を200名増員した。
- ・前立腺がん検診の対象年齢を50歳から40歳に引き下げた。
- ・器官別検診受診の募集時期を早めた。

#### ○臨時的任用職員・会計年度任用職員の待遇改善

- ・22年1月から、臨時的任用職員・会計年度任用職員に、不妊治療のための出生サポート休暇・出産補助休暇および育児参加休暇を、正規職員に準じて有給休暇として新設。また、会計年度任用職員の産前産後休暇を、無給から有給とした。
- ・引き続き、「臨時・非常勤見直しに係る事務的協議」で話をしていく。

#### ○施設・設備

- ・休養室等の整備は、大規模改修の際に学校の要望を聞きながら可能な限り行っている。

続いて、高教組からの主張を伝えました。

### 高教組からの主張(抜粋)

#### ○超勤問題

新型コロナウイルス感染拡大により、学校現場の教職員は20年度末からこれまで経験をしたことがない対応に追われ、大きな負担を感じている。この間、物資の予算措置やスクールサポートスタッフ等の配置が行われたが、それだけでは超勤問題の解決には至っていない。

また、超勤実態の把握のためにタイムレコーダーが導入されたが、超勤縮減にむけて県教委が早急に主体的にとりくむことを強く要求する。一方、「上限規制」についての意識が欠けていると思われる管理

木部武志さん(臼杵分会)

堀田文雄さん(由布支援分会)

堀尾里加さん(日出支援分会)

加藤博晴さん(爽風館定時分会)

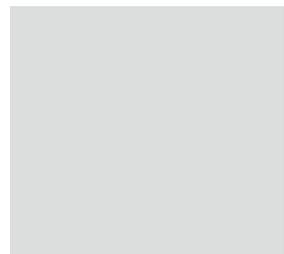
職もいる。管理職に「労安法」の趣旨や重要性を伝え、指導・助言を行うこと。

○校務用パソコンやタブレットの運用の負担軽減

「GIGAスクール構想」における端末の導入とオンライン化を、新型コロナウイルス感染拡大時に早急に進めたため、さまざまな課題が生じている。授業改善や事務処理等で、頻繁にICT機器を活用せざるを得ない状況がある。さらに、ICTに関する新しい知識や技術を習得するために研修が増え、負担はさらに大きくなった。また、タブレットが全生徒に配備されたが、ICT支援員等の人的配置は不十分である。また、Wi-Fi環境が不十分な状況もある。

校務用パソコンやタブレットで扱うソフトは年々増加し、利用する種類が学校によって異なっている。セキュリティ上の問題も含め、利用しやすいように改善をすること。

また、ICT支援員の1校に1名の配置を要求する。

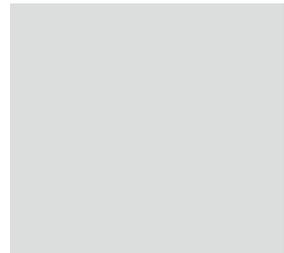


奥村美佐子さん (佐伯支援分会)

○特別支援教育

第3次特別支援教育推進計画について、改めて現場教職員の意見を十分に聞くこと。南石垣支援学校の移転や大分市内の特別支援学校の開校に関して、私たちの意見を反映させること。

施設・設備面も含め「合理的配慮」についても、学校現場の要求に応えられるように引き続き努力をすること。



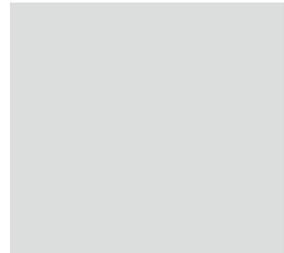
田中修二さん (大分東分会)

○臨時的任用職員・会計年度任用職員の待遇改善

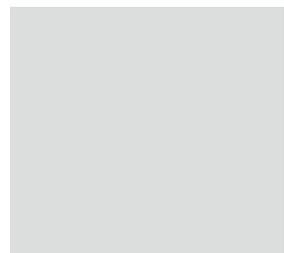
臨時的任用職員・会計年度任用職員は、日々の教育活動において正規職員と変わらない働きをしているが、賃金が不十分で、休暇制度も充実していない。働きに報いるために、さらなる待遇改善を要求する。

参加者からの意見

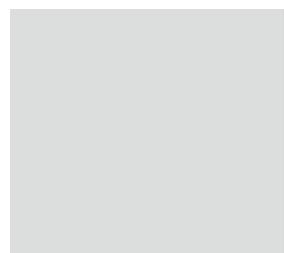
- 学校に新しい学科を設置する際は、必ず人員配置を行うこと。
- 爽風館高校はグラウンドがなく、アリーナにはエアコンが設置されていないために夏は体育の実技が実施できない。
- 子どもの発熱等が多いと、「子の看護休暇」の日数が足りなくなる。また、対象となる子を「高校生まで」としている県もある。改善を要求する。
- 育短等の制度があっても、周囲への負担を考えると使いたくても使えない。また、周囲もサポートをしたくてもできないくらい多忙である。十分な代替を要求する。
- 少人数学級が実現しても、定数法によって教員も減ってしまう。早急に定数法の見直しを行ってほしい。
- 建築や林業は教員が足りず、科目外の教員が指導をしている。採用試験を確実に実施すること。
- 人事異動のサイクルがあまりに早く、継続的などりくみができない。
- 県教委からの生徒へのアンケートはQRコードが配られ、回答後送信をするため教員が内容を知ることができない。
- 部活動のガイドラインが遵守されていない。
- 学校司書の全校配置を強く要望する。また、図書館専任とすること。
- 「通級における指導」は、誰が担当するかや授業内容はどうするかなど、課題が山積している。
- 電車の本数が減ったりバスの時間が変更になったりして、生徒に影響が出ている。交通環境の整備を要求する。



坪田健二さん (大分商業分会)

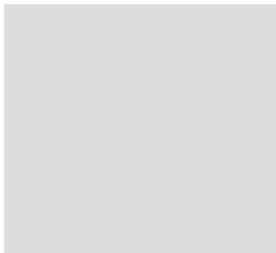


竹本哲也さん (日田林工分会)

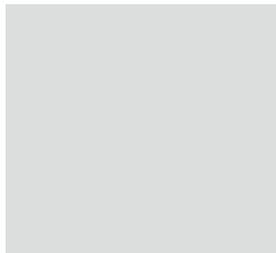


堀田秀俊さん (安心院分会)

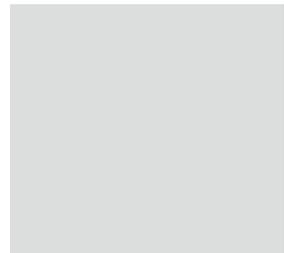
要望については人事課長対応でしたが、各関係機関にしっかりと伝えることを確約し、交渉は終了しました。



中山豊子さん (竹田分会)



湯浅真見さん (日田分会)



田畑幸子さん (別府支援石垣原分会)